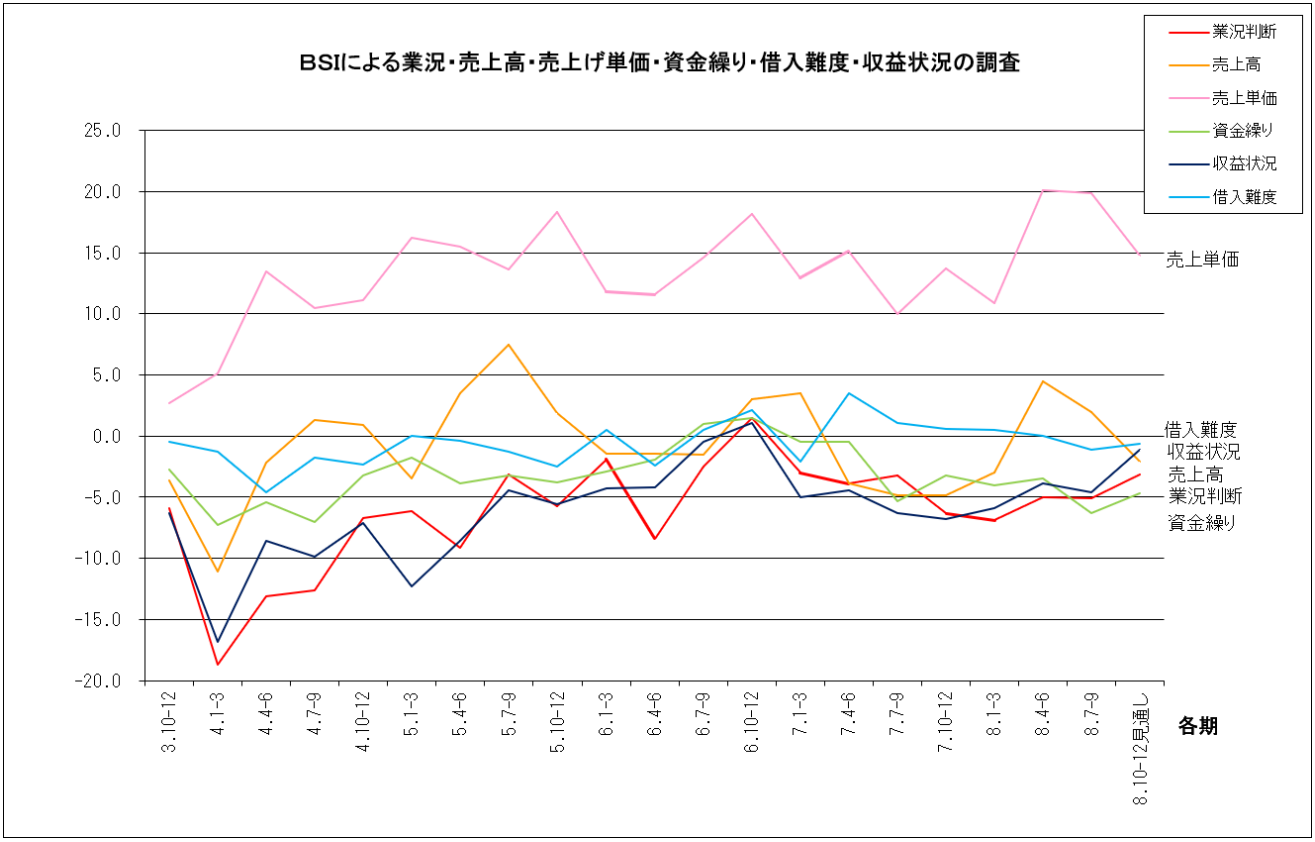
中小企業景況調査結果報告書

令和８年７～９月期（令和８年10～12月期予測）

―鳥取県下４商工会議所の調査より―



前年同期比＊（ ）内は令和７年７～９月期の数字

	回収数	売上高	売上単価	資金繰り	借入難度	収益状況	業況判断
全産業合計	99	2.0 (-4.8)	19.9 (10.0)	-6.3 (-5.3)	-1.0 (1.1)	-4.6 (-6.3)	-5.1 (-3.2)
製造業	23	10.9 (6.3)	24.0 (8.4)	-8.7 (-8.4)	-2.2 (2.1)	2.2 (4.2)	2.2 (2.1)
非製造業	76	-0.7 (-8.5)	18.7 (10.6)	-5.5 (-4.3)	-0.7 (0.8)	-6.7 (-9.9)	-7.3 (-5.0)
（建設業）	21	2.4 (2.5)	21.5 (10.0)	0.0 (0.0)	9.5 (5.0)	-9.6 (5.0)	-7.2 (10.0)
（卸売業）	19	2.8 (-5.9)	25.0 (17.7)	-5.6 (-3.0)	0.0 (-3.0)	2.8 (-11.8)	-2.8 (-5.9)
（小売業）	21	-7.2 (-19.5)	11.9 (13.9)	-9.5 (-13.9)	-7.2 (-2.8)	-9.5 (-25.0)	-7.2 (-13.9)
（サービス業）	15	0.0 (-12.5)	16.7 (0.0)	-7.7 (0.0)	-7.7 (3.6)	-10.0 (-9.4)	-13.4 (-12.5)

来期（令和8年 10～12 月期）見通し＊（ ）内は前年同期の数字

	回収数	売上高	売上単価	資金繰り	借入難度	収益状況	業況判断
全産業合計	99	-2.1 (0.0)	14.8 (-4.8)	-4.7 (-4.8)	-0.6 (1.6)	-1.1 (-7.9)	-3.1 (-7.9)
製造業	23	10.9 (2.1)	19.6 (6.3)	-6.5 (-8.4)	-2.2 (0.0)	4.4 (-6.3)	0.0 (-6.3)
非製造業	76	-6.1 (-0.8)	13.4 (-8.5)	-4.2 (-3.6)	0.0 (2.2)	-2.7 (-8.5)	-4.0 (-8.5)
（建設業）	21	-4.8 (7.5)	14.3 (2.5)	2.4 (2.5)	7.1 (5.0)	-2.4 (2.5)	-2.4 (2.5)
（卸売業）	19	-11.2 (-3.0)	16.7 (-5.9)	-2.8 (0.0)	2.8 (0.0)	0.0 (-8.8)	-2.8 (-8.8)
（小売業）	21	-4.8 (-2.8)	11.9 (-19.5)	-9.5 (-11.1)	-4.8 (0.0)	0.0 (-22.2)	-7.9 (-23.6)
（サービス業）	15	-3.6 (-6.3)	10.0 (-12.5)	-7.7 (-6.7)	-7.7 (3.6)	-10.0 (-6.3)	-10.0 (-9.4)

＊BSI＝（上昇・増加―減少・下降）×1/2　（但し、「上昇・増加」+「横ばい」+「減少・下降」＝100）
経営者の業況に対するマインドを反映るもの。（0%は「上昇・増加」と「減少・下降」が同数。「＋」は上昇・増加、「－」は減少・下降）

■業況（グラフ参照）は・・・・

全産業合計の業況判断はマイナス５．１と、前年同期の調査に比べ１．９ポイント悪化しました。売上高は改善が見られるものの、価格転嫁に苦慮する声もあり、原材料高や経費増による負担が業況回復の重荷になっているものとみられます。

来期の業況判断はマイナス３．１と、前年同期の調査時の見通しより４．８ポイント改善しました。ただし、非製造業を中心に厳しい見方が残っており、先行きの回復に慎重な姿勢が見られます。

【対前年同期比】

業況判断は、製造業に小幅な改善が見られた一方、非製造業はマイナス７．３と悪化。業種別では、建設業が大幅に悪化した一方、卸売業や小売業は改善が見られました。

売上高は、製造業で改善したものの、収益状況は前年同期を下回りました。売上の改善が利益確保につながっていない状況が伺えます。原材料の高騰や経費増を販売価格に反映しきれないことが、一部で収益改善を妨げていると見られます。

【来期（26 年 10～12 月）見通し】

全産業合計の来期業況判断は、前年同期から４．８ポイント上昇しました。製造業は０．０、非製造業はマイナス４．０となり、先行きに対する見方には差が見られます。

事業者からは、価格転嫁の難しさや人材確保の厳しさを訴える声もあり、コスト増への対応や利益確保への懸念が背景にあると推察されます。業況は改善の兆しはあるものの、先行きには厳しい見方が残っています。

■直面している経営上の問題点

１位：原材料・仕入れ価格上昇（22.66%）
２位：経費の増加（16.91%）
３位：人手不足（14.39%）
４位：消費・需要の停滞（11.15%）
５位：売上・受注の減少（10.43%）

経営上の問題点は、延べ回答数に占める割合で「原材料・仕入れ価格上昇」（２２．６６％）が１位、「経費の増加」（１６．９１％）が２位、「人手不足」（１４．３９％）が３位となりました。４位は「消費・需要の停滞」（１１．１５％）、５位は「売上・受注の減少」（１０．４３％）で、コスト負担や人材確保、需要面の課題が挙がっています。

自由記述では、原材料高に売上単価の改定が追い付かないとの意見（建設業）や、経費の増加分を価格に反映できず、利益確保が難しいとの声（製造業）が寄せられました。

また、不正アクセス対策の必要性や大企業と比べた採用の厳しさ（いずれも製造業）、入荷の遅れ（卸売業）、電気代などエネルギーコストの上昇への懸念（建設業）がありました。コスト増や人材確保をはじめ、幅広い課題への対応に苦慮する様子が伺えます。

■各社からのその他の問題点

・製造コストの上昇、もしくは高止まりは相変わらず頭の痛い問題ですが、不正アクセスへの対策も急務となってきました。（製造業）
・代金回収の遅延や仕入価格の上昇など業況判断は好転しているとはいえない。大きく悪化もしていない（製造業）
・経費アップを販売価格に反映できず利益確保が困難な状況が続いている（製造業）
・大企業の好景気や従業員の採用等と比較し、中小企業では厳しい状況が継続している。（製造業）
・外廻りをしていて実感ですが、全体的に景気は良くない。やはり物価高の影響が大きく感じます。円安が止まらない(150 円以下)と景気は上がらない気がします。家庭の買い物でもそれは感じます。今まで２個買っていたものを１個にするとか、質を落としたものになるとか・・・。米子も他の市町村のように大手企業の誘致を積極的におこなわなければ商売はなりたちません。みな隣県に人も仕事も流れていきます。（製造業）
・商品の入荷遅れ。（卸売業）
・原材料が半年ごとに上がる状況で、それに伴う売り上げ単価が追い付かない。10 月から電気代等も値上がりしてくる状況で、ますます経営的にも困難になる。（建設業）
・東部への公共工事発注の増加を望む（建設業）
・来期は見通しがつかない。人の流れ、通り（サンロード）の状況が変わってきている。食材の高騰の影響なのかと考える（サービス業）